



教育目標

学ぶ チャレンジ 夢実現

本年度の重点目標

- 1 学習指導の強化…基礎基本の定着、学び直しの支援
- 2 生徒指導の充実…規律ある生活、基本的生活習慣の確立
- 3 進路指導の改善…進路目標の明確化と職業観・勤労観の育成

達成度

- A ほぼ達成 (8 割以上)
B 概ね達成 (6 割以上)
C 変化の兆し (3 割以上)
D 不十分 (3 割未満)

学 校 自 己 評 価

現状と学校評価実施計画					達成状況と改善策		
No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の 評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への 課題と改善策
1	【学習指導】 ・不登校や学習時間の不足から、小・中学校の学習内容が定着していない生徒が多く見られる。 ・学ぶことへの意欲が低い生徒がいる。 ・非常勤講師を除き、各教科 1 名の体制であるため、教員同士で切磋琢磨する場面が少ない。	(1) 教員の授業力の向上	①年間 2 回の校内公開授業における授業への積極的な参観や見学者アンケート等により授業力の向上を図る。 ②授業評価を組織的に実施し結果を踏まえ改善を図る。	・ 1 回の公開授業における 1 人 5 回以上の参観の実施状況 ・ アンケート結果の授業者振り返りへの活用状況 ・ 組織的な授業評価の実施状況	・ 年 2 回の公開授業で 60%以上(平均:63.9%)が 5 回以上参観した。 ・ 生徒アンケートの結果を授業者が確認し改善点について整理できた。 ・ アンケートを活用した組織的な授業評価システムを構築し、活用することができた。	(A)	・ 校内公開授業への積極的な参加を継続して呼びかけていく。 ・ 公開授業への参加と合わせて、授業についての簡単な意見交換をより多く実施する。 ・ 授業評価システムが授業改善に役立つシステムになるよう改善を図る。
		(2) 基礎学力の定着	①漢字テストとマイスタディの事前・事後指導の毎回実施と時間ごとに小テストを実施し、返却時に担当教科で事後指導を行い、基礎学力の定着を図る。	・ 小テストの実施状況 ・ 事後指導の実施状況	・ 毎時間的小テストと生徒の実態に応じた事前・事後指導を行った。	(A)	・ 生徒に使用するテキストを、状況に応じ検討していく。
2	【生徒指導】 ・長期欠席、不登校、ひきこもりなどの経験者が多く、様々な生活経験・体験が乏しい。 ・失敗することを嫌い、行動しない選択をとりたがる。 ・自ら考え行動するのではなく、指示されることを待つ事が多い。	(1) 規範意識の向上	①生徒理解を推進するため、生徒への声かけをする。 ②生徒や保護者へ寄り添い、報告・連絡・相談を徹底する。	・ 年に 2 回の面接週間による生徒理解の状況 ・ 教育相談の充実による共通理解の状況	・ 新入生への SC による面談と個別教育支援計画作成に着手した。 ・ 特別支援等の教職員研修を実施した。	(A)	・ 生徒全員の個別教育支援計画を作成する。 ・ 保健室利用票と特別指導票を一体化させ、指導記録として活用する。
		(2) 基本的生活習慣の確立	①皆勤を目指すはたらきかけを実施する。 ②担任等への保護者及び生徒からの連絡を徹底させる。	・ 欠席・遅刻・早退数の減少 (昨年度合計比) ・ きめ細かな双方向への連絡の実施状況	・ 2 学期末現在出席率 84.8%、遅刻者数 609 名、早退数 137 名。 ・ 教職員間での情報交換を随時実施した。	(B)	・ 各部との連携、全職員並びに保護者との連携のもと、コミュニケーションの機会を大切にし、基本的生活習慣の確立に向けて支援していく。
3	【進路指導】 ・職業観・勤労観が未熟な生徒が多い。 ・自己理解の不足から、進路目標を明確に出来ない生徒が多い。	(1) 職業観の育成・進路意識の高揚	①行事内容を検討・改善し、職業観の育成、進路意識の高揚を図る。 ②勤務先調査を実施するとともに、昼間の時間を効果的に活用するよう働きかけ、働くことの意味を考えさせる。	・ 各行事のアンケートおよび作文等の評価結果 ・ 勤務先調査の結果で就労率 75%以上 ・ 職業観に関する生徒アンケート結果	・ 進路講演会の内容を検討・変更し、生徒の意識の高揚を図った。 ・ 勤務先調査の結果、就労率は 4 月末 48.9%、9 月末 60.5%であった。	(B)	・ 教員・生徒のアンケート等を参考に行事内容を振り返り、さらに検討・改善していく。 ・ 渉外部と連携して、定時制後援会会員の職場との連携を図っていく。
		(2) 自己理解の深化	①LHR や総合的な学習の時間等における取組や適性検査の結果の面談等へ効果的活用を図る。	・ 職業観に関する生徒アンケート結果 ・ 進路希望調査における未定者の減少	・ 進路希望調査における職種希望未定者の数は 4 月末 10 人、9 月末 6 人であった。	(B)	・ 引き続き、適性検査の面談への活用を工夫する。

学校関係者評価

実施日 平成 31 年 2 月 21 日
学校関係者からの 評価・意見等
・ 生徒アンケートの習熟度別学習、学力向上、授業の準備、学習意欲は好結果であるがマイスタディの改善が必要。 ・ 授業研究のさらなる推進をすること。 ・ 他校視察や外部講師を活用した校内研修の充実を図ること。
・ 自己肯定感をいかに育むかの検討が必要である。 ・ カウンセラー面談の導入は大変良い試みである。 ・ 学校行事等を保護者に周知するため HP 掲載に加え「学校便り」などを活用。 ・ 昇降口掲示板を有効に活用すると良い。
・ 学びに向かう姿勢が良いので各種検定試験の受験を勧奨するなどして進路実現に生かせると良い。

